

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年12月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103581
法人名	医療法人 裕智会
事業所名	グループホーム アルプス
所在地	鹿児島県鹿児島市高麗町42番12号 (電話) 099-286-1230
自己評価作成日	令和4年10月31日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームアルプスは、母体である医療機関の呼吸器科医・糖尿病医・認知症サポート医による医療、リハビリ室の理学療法士による日常生活動作の評価・指導、医療連携看護師による健康チェック等を行っております。コロナ前は、地域の方々や当法人の協力を得ながら地域の方々との交流、専門講師を招いての音楽療法、ボランティアの方々の受け入れ、学生の職場体験(コロナ禍で今回中止)を行っております。今回はコロナ禍の為受け入れが出来ず、施設よりグループホームについての講話を行いました。食事提供について、献立を作る際は入居者様の好みを聞き、取り入れるようにしております。食事形態の変更時は職員の話し合いが行われ、きざみ食・ミキサー食への変更をします。行事の時などは法人からの協力があり行事食提供することでマンネリ化を防ぐと共に、日頃と違う食べ物を出すことで新たな感動を生み出すようにしております。内・外部研修にも積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市の中心部、高麗町の市電道から一筋入った一角のビルの2・3階に平成16年に開設されている。周辺には中学校や金融機関、医療機関、スーパーマーケットや多くの商業施設、マンション、個人住宅等が立ち並んで利便性は良い。徒歩2～3分の所に法人母体の医療機関があり、ホームの協力医療機関として利用者の通常の診療や夜間及び急変時に対応しており、利用者や家族の安心や信頼に繋がっている。

地域密着型事業所として、開設以来、地域との交流に積極的に取り組んできており、町内会に加入して会合やイベントへの参加や回覧板による情報の把握、災害時の避難場所としての受け入れ、中学生の職場体験、ボランティア、友人知人の面会等に取り組むなど円滑に交流する関係を築いているが、現在はコロナ禍に配慮して殆んどを自粛している。中学生に認知症やグループホームについての講演を行い、また住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアに関する相談にも専門性を生かして助言に努めている。

管理者及び職員はホームの理念を各ユニットの入口に掲示し、毎月の職員会議時には唱和も行っており、利用者への周知を図っており、利用者の尊厳や人格、想い、習慣等を大切に、その人らしい生きがいと安らぎのある日々となるようなケアに取り組んでいる。日頃から利用者及び家族からの意見や要望の汲み取りに努め、職員会議や申し送り時に検討して運営やサービスの改善に取り組んでおり、家族との信頼関係が築かれている状況がアンケートの結果からも窺える。

管理者及び職員は、気軽に意見を言い合える信頼と協力の体制を築いており、日頃の業務の中や申し送り、職員会議等で意見や要望を出し合い、また、個人面談の実施で個人的事情等も把握して業務やサービスの向上に努めている。管理者は、日常的にケアに対する助言・指導やスキルアップを図る研修を実施し、勤務シフトには休憩時間の確保や有給休暇の取得促進、健康状態、家庭の事情等にも配慮するなど、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。法人による給与体系が構築され、資格取得時の経費の助成制度もあり、職員のモチベーションとなっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は、施設入り口の目の付く場所に提示し、理解と意欲を図っている。スタッフが理念について理解し、理念の共有を図っている。	理念に「利用者が地域や家族と関わりながら笑って、かつ歩ける暮らしとなるような支援」を掲げ、各ユニット入口の目に付き易い場所に掲示すると共に職員会議での唱和や日頃の業務の中及び職員会議時に振り返りや意義の確認、意見交換等を行って理念の共有とケアの実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で中止せざるを得ない月もありましたが、運営推進会議を開催し、交流を図っています。ボランティアの受け入れは、コロナ禍で中止しております。	開設以来、地域との交流を大切に取り組んでいる。町内会に加入して地域の情報を把握し行事等への参加やホームのイベント（敬老会等）に家族や地域の人々の参加が得られ、職場体験やボランティアも受け入れるなど良好に交流出来る関係が築かれているが、コロナ禍に配慮して現在は一時帰宅、外食、イベントへの家族や友人の参加、ボランティアの受け入れ等は控えている。中学生に認知症やグループホームについての講演を実施し、住民から寄せられる相談には専門性を生かして助言等に努めている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	民生委員や居宅支援事業所、長寿あんしん相談センターと連携を図っている。コロナ禍前は、当院で認知症カフェを開催しておりました。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、グループホームでの生活の様子や入居者の方々の状態報告、行事報告を行っている。外部からの客観的な意見を集め、改善に努めております。	会議は、家族代表、民生委員、町内会長、住民代表、包括支援センター等が出席して隔月毎に開催しているが、コロナの感染状況によっては書面会議に変更している。利用者の状況や行事、ヒヤリハット等を報告しており、書面会議の前には委員に資料等を持参して意見等を貰っている。職員は寄せられた意見を職員会議等で検討して運営やケアの向上に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当課・担当者へ相談・連絡を行い、認知症の方々が安心して生活できる環境作りに取り組んでいます。行政との協力関係の重要性を認識し、協力関係を継続しています。	市の担当者とは窓口に向いて、介護保険の代理申請や各種制度の申請・報告、感染症予防に関する協議、生活保護受給中の利用者（3名）の処遇に関する連絡等を行い、助言や指導、提案を貰うなど、日頃から密に協力関係を築いている。市からの情報の把握に努め、運営やサービスの向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や内部研修に参加し、身体拘束に繋がる行為についての理解を深め、入居者様に寄り添ったケアを行えるよう努力している。本院の職員とグループホームの職員、院長、副院長、部長を交えての安全委員会は月に1回実施しております。	身体拘束の無いケアについては運営規定や重要事項、利用契約書に明記され、計画的な研修の実施で認識を共有し、研修終了時には全員レポートを提出して理解状況を把握している。毎月の職員会議や日頃のケアの中で言葉による拘束も含めて振り返りや意見交換等を行い、尊厳や個性、利用者の特性を大切にされた拘束の無い自由な暮らしを支援しており、適正化を図る委員会も年4回、法人全体で開催している。不適切な言動には、その都度、場を変えて助言して改善に努めており、センサーは使用していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部からの講師を呼ぶ研修が出来ない状況となっている為、内部研修として、人権や虐待の及ぼす影響等について学び、虐待ゼロを目指したケアに努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍前は、外部より人権擁護委員を招き、講演を依頼していた。成年後見制度については、利用されておられた利用者がおられ、身近に感じる事が出来ました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時は時間を設け、書面にて十分説明し、理解してもらえるようにしている。不安や疑問点が出てきた場合もその都度説明を行い、理解しているように努めております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍前までは、年2回家族会を行っておりました。運営推進会議を利用してご意見・ご要望をお聞きしている。事業所の入り口に意見箱を設置している。ご家族へはタブレットや電話、お便り等で意見を求めています。	利用者の思いは日常の会話や表情、独自のサイン等を見逃すことの無いように把握し、家族にも意見・要望等を言いやすいように日頃から配慮している。パーテーション越しでの面会（タブレットも併用）や電話、ライン、家族会等の機会のほか、管理者が毎月、利用者の現状をお便りで詳しく伝え、「アルプス新聞」も発行して意見、要望を聞き取るように努めている。職員は出された要望・意見を共有し、職員会議等で協議して改善を図っており、結果は家族にも報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の運営や大きな決定については、会議にて話し合いを行っている。職員の疑問や提案等がある時は、話し合いが反映できる環境づくりに努めている。	管理者及び職員は日頃から信頼及び協力関係の構築に努め、業務の中や連絡ノート、職員会議、個人面談等で業務に関する意見や要望、悩み、個人的事情等を把握し、業務改善やサービス向上に繋げている。勤務シフトには可能な限り職員の希望を十分に反映させ、休憩時間の確保や有給休暇の取得促進、資格取得へのバックアップ等、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員不足の中、個々の努力や勤務状況を把握するように努めております。個人面談を行い、意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修を行っている。院外の研修は出来ていないが、院内の研修は実施されている。多くの職員のスキルアップが図れるように努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に参加し、勉強会・交流会に参加している。サービスの質の向上につながる様に取り組んでいます。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様との事前面談で得た情報、又、病院や利用していた施設からの情報を基に、日々の生活の中で信頼関係が築けるように努力している。月1回の便りだけでなく、タブレットや電話も活用して安心できる環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时に面談を行い、困っていることや不安に思っていることなど相談にのっている。ご本人様、ご家族様が安心できる（何でも相談できる）環境作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会を行い、サービス導入時に優先順位を考え、初めはお互い手探り状態の為、短期間でのプランを作成し、徐々に見直していく。その時必要だと思われる事を提案しながら、サービス内容を具体化させています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントを十分に行い、残存機能を理解し、ご本人様が得意とする事を導きだし、個性を大切にしながら、共同生活が送れるようにお互いに支えあう関係作りを築いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様・ご家族様・職員が同じ思いでつながることが大切だと感じております。面会やご家族様との外出・外泊への支援をコロナ収束後は再び積極的に行ってまいります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしていた友人や知人との関係が途切れる事がないように支援している（電話のとりつぎ）馴染みのある散髪屋を継続して利用している。電話・手紙・タブレットの活用、馴染みの関係性を大切にしている。	入所前の生活状況等をアセスメントで把握し、利用者毎に馴染みの人や場の情報を共有している。感染症の予防に配慮しながら家族や友人の面会の実施や馴染みの理髪店での訪問による整髪、電話や手紙の取り次ぎに努め、本人の希望に沿って周辺の散歩等を支援している。写真を添付した毎月のお便りや園便り「徒然草アルプス新聞」の送付等で利用者の状況を伝え、年賀状も送付するなど馴染みの人や場との関係継続に努めているが外泊や一時帰宅等は控えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の趣味や興味のあるもの、現在の能力を見極めながら席の配置をしたり、交流が図れるように環境を整えている。お互いが支えあう関係が上手くいくように職員が調整役となり支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当法人のサービス（契約）が終了しても、要望等がある時は真摯に対応している。これまでの関係を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や何気ない一言、表情（非言語）や行動を重要視している。モニタリングをすることでご本人様の思いをくみ取る事ができるよう、努めています。	利用者の思いは、日頃の会話や仕草、独自のサイン等から見逃すことの無いよう汲み取りに努め、家族の意向も確認しながら、安全でその人らしい楽しみのある日々になるような支援に取り組んでいる。利用者の意向に沿って趣味（切り絵や計算ドリル、新聞読み・テレビの視聴他）や得意な家事の取り組みを体調等に配慮しながら個別に支援し、それらの成果には評価や感謝の言葉を添えて、自己肯定感が得られるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活について、聞き取りを行い情報をまとめ、職員間で把握し、共有していく様努力している。新たに知り得る生活歴や経過も大切にし、対応に結び付けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活から、マイナスの要素ばかりに目を向けるのではなく、プラスの面に目を向ける。職員も共有して支援していく。多方面からの支援にも取り組む。職員のスキルアップを行うことも大切。職員の力量に差がある。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。ご家族との話し合いや主治医からの医療面での指示・指導、又、ご本人様の状態や変化に応じて見直ししています。	利用者や家族の思いを丁寧に把握し、主治医の指示やモニタリング、カンファレンス時の職員意見を基に改善点等を把握し、身体機能や習慣、楽しみ事等にも配慮した介護計画を作成している。計画は半年毎に見直しすると共に、心身の状態の変化時には随時、実態に沿って変更して改善に取り組んでおり、家族にも説明している。ケアの実施状況はバイタルチェック表や業務日誌等で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は本人様が発した言葉だけでなく、表情等も記録に残し、必要な情報の把握やケアの計画見直しに役立つようにしている。特に非日常的な出来事は具体的に正確に伝わる様を書くことで共有した支援を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当院の通所リハビリテーションの利用者様の情報をもらい、在宅での生活が困難になった時にグループホームへの住み替えが出来る様に取り組んでいます。関わっている全職員からケアについての意見を聞く事で入居者様の思いや考えを多角的に捉え、柔軟なサービスの提供につなげている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会長や民生委員、地域住民、長寿あんしん相談センターの方に入っただき、様々な情報交換を行っています。地域の回覧板にも目を通してあります。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本院での定期受診や特変時の受診、ご家族が付き添われる専門医への受診等、ご本人様・ご家族様の希望を大切にしながら、受診支援を行っています。	各利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しているが、殆どの利用者が協力医療機関を主治医としている。定期的な訪問診療（月2回）が実施され、他科受診は家族および職員が協力して同行するなど適切な医療を受けている。医療連携の担当看護師が週1回訪問して衛生や健康管理に努め、協力医療機関とは24時間医療連携の体制を構築しており、利用者及び家族の信頼、安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携担当看護師の24時間オンコールで相談できる体制にあり週1回の健康チェックの為、訪問される。介護職員の記録を確認し、連携を図り、適切な受診や看護を受けられるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時サマリーを作成し、情報の提供を行っている。以前は、入院時にはお見舞いに行き、状態の確認をしていたが、現状は難しくなっています。入居者様が退院後安心して生活出来る様に情報交換を行っております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化や終末期に伴う対応の指針を説明している。重度化する可能性が生じた場合、家族の意向を確認し、医師や看護師、職員と話し合いを行い、意向に添えるようチームケアを大切にしながら取り組んでいます。	重度化や看取りの対応については「看取りに関する指針」の整備や入所時に利用者及び家族に説明して事前意思確認書を貰っている。重度化した時点で家族の意向を確認しながら可能な限り意向に沿ったケアを訪問看護も活用するなどチーム体制で取り組んでおり、これまでも看取りも実施している	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍以前は、日本赤十字社の協力で心肺蘇生術や応急手当の研修が実施されていた。消防署の協力を得ている。急変時のマニュアルに基づき、行動できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力と指導で避難訓練を行い、消火器の使い方や避難経路の確認などの訓練を定期的に行っている。施設点検指導も受けている。職員ミーティングの時には地震（津波）についても研修を行った。</p>	<p>非常災害対策については運営規定でも詳細に規程しており、年2回（内1回は消防署立ち合い）夜間発生も想定した火災中心の通報、避難、消火の災害訓練を実施し、消火器や自動通報装置等の取扱いも研修している。地震災害の自主訓練を実施し日頃から避難経路等の確認や災害事例を話題にして認識を共有している。災害時の食料や飲料水、介護用品等（3日分以上）をチェックリストを保管場所に貼って管理している。また、地域との協力体制を築き住民の避難場所になっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が人格の尊重、尊厳の保持、プライバシーの保護について意識している。個別性を重視している。個々の性格や思いに配慮しながら対応している。気付いたら注意している。	人格の尊重やプライバシーの確保、個人情報保護については運営規定や利用契約書に明記され、計画的な研修の実施等で周知を図って実践に繋げている。利用者の習慣や思いを大切に、尊厳を損ねる言葉遣いや対応を行わないように日々努めており、居室やトイレ、浴室等はプライバシーが確保された構造で台帳類も事務室で適切に管理している。衣服の選択や余暇時間の過ごし方は利用者の自己決定を尊重しながら柔軟に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な場面を通じて、関係性を構築する様に努めています。各自が自己決定できる様に個別ケアを重視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の得意分野を活用しながら、入居者様のペースや意向、希望を重視した支援を行っている。個人に寄り添うケアを行っているが時には職員の思いでケアを行うことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自己決定が出来る入居者様は思いに添うケア、出来ない方には職員が季節等を考慮してケアしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ感染後に、食事形態の見直しが必要となった入居者様が多くのいる。食べやすいようにミキサー食やトロミ食など工夫をしている。	利用者の好みや栄養バランス、形態、季節感等に配慮し、屋上の菜園の野菜も活用している。お節や節句、敬老会などの昔からの習慣を大切にした行事食や誕生日の希望食、敬老の日やクリスマスの仕出し、手作りのおやつ等、食事が楽しみとなるように工夫しており、利用者も食材の下処理や下膳等を楽しみながら行っている。コロナ禍に配慮して外食や家族との会食、弁当持参の外出等は控えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や形態は、各自に合わせている。食べ物の好き嫌いなどを入居時に聞き取りしている。食事摂取量の把握と記録を行っています。毎月、体重測定を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声掛けを行い、口腔ケアを行っている。義歯消毒は就寝時に行っている。自立支援の範囲内で支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄は尊厳保持につながる事なので、認知症の進行と関係性も考慮して支援している。排泄パターンを把握している。意思表示が難しい方も表情や行動をみて、声掛け案内している。	利用者の排泄パターンをチェック表で把握し、身体の機能や習慣、羞恥心等にも十分配慮している。リハビリパンツ使用の利用者が多く昼間は声掛けや付き添い等で可能な限りトイレでの排泄を支援して排泄機能の維持を図っており、介護用品の軽減等の改善も見られている。便秘の予防に乳製品、植物繊維の多い食品、水分量、運動等に配慮し、状況によっては主治医にも相談して対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や朝10時のヨーグルト、牛乳、植物繊維の多い食材を提供している。身体を動かす、水分を摂れるように促すことで、便秘解消につながるようになっている。主治医より、服薬が処方されている方もおられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の個浴を基本としている。入浴順番においては入居者様の意向に添うようにしている。入浴を嫌われる方も感染予防や衛生上の観点から声掛けを行っている。	健康状態や意向を確認しながら基本週3回の入浴を、清拭への変更等も取り入れながら支援している。時間や順番、温度、同性介助等は利用者の意向に沿って柔軟に対応し、個浴でゆっくり楽しんで貰っている。入浴後は保湿軟膏の塗布や水分補給を支援している。入浴を渋る利用者は現在はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のこれまでの生活習慣を尊重し、安心して眠れる環境を提供している。室温や温度も各自の体調や個性を重視して調整している。昼夜逆転の方には日中活動的に過ごして頂き、午後からは精神的に安定して過ごせるように穏やかに過ごして頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	週1回の定期受診の際、主治医が状態観察を行い、服薬の目的を入居者様や職員へ伝える。服薬管理帳を確認する。変更時は連絡ノートにて周知徹底を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合わせた自立支援を行っています。洗濯物畳み、下膳、お盆拭き、もやしの根切り、新聞紙ちぎりなど、それぞれが出来た事で役割を持たせる。歌の好きな方には歌を提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、以前行われていた散歩や外気浴が出来なかった。コロナが収束したら花見や買い物、外食、食事会、ドライブなどを行う予定です。ご家族様との外出、外泊も出来るようになりますと思います。	全員での外出は利用者の意向も確認しながら計画的に実施してきたが、現在はコロナ禍で困難な状況で、テラスや屋上の菜園での外気浴や、通院時のミニドライブ、周辺の散歩を個別に楽しんでいる。地域のイベントの殆んどが中止され、ホームの外出も十分には実施できない状況が続いているがコロナの収束が図られたら花見やドライブ、外食等の外出を取り組むこととしており、現在は室内での軽い体操やゲーム、職員による模擬の観光ガイド、テレビ視聴など工夫してリフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は自己管理される方もいらしたが、近頃は難しくなっている為、施設で、入居時に預り金として(3000円~5000円)預かっている。収支については請求書送付時に毎月ご家族に送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族様より電話があった際は取り次ぎ、ゆっくり話していただくよう支援している。また、友人より電話があった際は、ご家族様へ取り次いで良いか尋ね、大丈夫とのことでしたら、取り次いでいる。月に手紙を下さるご家族様もおられる。タブレットも利用し、顔を見てお話ししている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激(音、光、色、広さ、湿度など)がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るさや温度、湿度、換気を行っている。また壁面制作は職員と入居者様で共同作業を行い、飾っている。季節を感じていただける様、窓から見える木々や花など眺めてもらっております。	ホームはビルの2・3階に位置しており、全体が明るく余裕ある広さが確保されている。ホールにはテーブルセットやテレビ、ソファ、空気清浄機等が動線や利便性を考慮して配置され、季節感のある利用者の作品や活け花、利用者が一日の終りにチェックする大きなカレンダー等が飾られている。屋上の菜園の野菜等からも四季が感じられて和やかで落ち着いた雰囲気となっている。清掃、整頓が徹底され、空調、異臭、感染予防にも細かに配慮して、快適に過ごせる環境整備に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の交流が図れるようレクリエーションの内容の工夫を行っている。テレビを見たり、歌を聞いたりして、楽しく過ごせる空間づくりを行っている。職員も会話に加わる事で話の広がりを作り、それぞれ楽しめるよう心がけを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者様にとって馴染みの物をご家族様と相談し、これまでの生活環境を崩さない様配慮している。使い慣れた家具、家族写真など。毎朝清掃や週一の寝具交換を行っている。</p>	<p>居室はフローリングの床に掃出し窓の構造でテラスも設けられて明るく余裕ある広さが確保されており、ベッド、エアコン、ロッカー、が備えられている。利用者は長年愛用していたロッキングチェアやテレビ、家族写真、遺影、位牌等を持ち込み、自身の作品や長寿祝いで頂いた品物等も飾って、家庭同様に居心地よく過ごせる雰囲気のある居室となっている。居室は花の名前で表示し、利用者の状態に応じて清掃や環境整備を支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者様の個性や身体機能に合わせて居室の提供を行っております。状況に応じて福祉用具の相談等も行います。エアコンの当たり具合、身体状況に合わせて、家具ベッド等の配置を工夫しています。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない